

第18次B地点調査の概要

どこを（調査場所）



赤線は平成23(2011)年3月8日に国指定された範囲

いつ（調査期間）

平成11(1999)年11月1日～12月7日

だれが（調査した人）

赤坂遺跡調査団

調査概要

所在地 神奈川県三浦市初声町下宮田485番5
調査面積 50㎡
調査原因 学術調査
主な遺構 住居址2軒 溝状遺構1条
主な遺物 壺形土器5点 柱状石斧1点 抉入片刃石斧1点 有角石器1点 棒状石器1点
特記事項 1号住居址は推定長軸5mほどで、2号住居址は長軸7mの規模をもつものと思われ、2軒の住居址の切り合いから、同じ宮ノ台期でも時期差があることが判明した。また、注目すべきは2号住居址から有角石器と棒状石器が並んで発見されたことである。三浦半島から有角石器が出土したのは二例目であるが、完形品としては、本例が初めてである。（参考文献：『神奈川県三浦市赤坂遺跡第18次B地点発掘調査概報・2000年6月』）



2号住居址より出土した壺形土器の検出状況。宮ノ台期でも時間差があることがわかる結果となった。（所蔵：三浦市教育委員会）



調査区的全景写真。写真手前が1号住居址、奥が2号住居址で、2号住居址の方が1号住居址よりも新築の住居址であることが分かる。（所蔵：三浦市教育委員会）



有角石器（写真左）と棒状石器（写真右）の検出状況。有角石器は、三浦半島で2例目（完形は初事例）。県内でも三殿台遺跡や折本西原遺跡など拠点集落内で出土例が知られていて、希少な出土例である。（所蔵：三浦市教育委員会）